

河川伝統技術名称：**粗朶沈床**

分類：護岸根固工 年代：19世紀代

河川名：信濃川他

都道府県/地先：新潟県他 北陸地建等



粗朶を刈り取る粗朶山



切り株から生えた若木



粗朶沈床を編んでいる状況



できた粗朶沈床をクレーンで設置
(後から石を投入する)

資料：「わかりやすい粗朶工法の施工事例集」、H11.2、監修 北陸地建河川部、編集 粗朶工法編集委員会

(概要) 大きな石が手に入りやすく、木が豊富な我が国に適した工法で雑木の枝を編みマットをつくりこれに石を詰める工法。明治にデレーケ等のオランダ人技師より伝えられたといわれ、現在でも北陸地方を中心に施工されている。粗朶工法に用いる粗朶は、ナラ・クリ・カシ・クヌギ・コブシのように堅くて、強靱性に富んだ材質の樹梢の、主として広葉樹(落葉樹)で、俗に雑木と呼ばれている樹齢7~10年位に成長した樹を刈り取って用いる。粗朶を供給するための粗朶山が管理され、適正な需要があれば自然素材である粗朶をほぼ永続的に供給可能である。森林素材の活用、CO²問題、水際の多自然化等、多数の環境面のメリットがある。現在、一部機械を利用した施工や設計指針の検討等が進められている。